

茅葺屋根のある合掌作りクラブハウス（小窓内は冬の表玄関）



その278

クローズアップ21

## 開場60周年。伝統を守り改革 白河高原カントリークラブ

### スループレー主体でゴルフと宿泊・温泉・食事の満足度高める

昨年開場60周年を迎えた白河高原CC（18H、福島県西白河郡西郷村）が冬場も併設のホテル営業をするなど様々な改革に取り組んでいる。

東北自動車道・白河ICから車で20分、JR東北新幹線・新白河駅から車で約25分。ゴルフ場までの国道289号（甲子道路）は信号がほとんどなくストレスを感じないアクセスが可能。ゴルフ場は新幹線の時間に合わせて無料送迎も行っている。

ゴルフ場に到着すると世界的にも珍しい一部茅葺屋根をいただくクラブハウスが来客を迎える。江戸時代の宿場宿か山荘かと、思わせる趣だ。

同クラブは全国で12コースを展開する東京建物リゾート（株）（加藤久利代表取締役、東京都中央区）が運営。2年程前から宿泊・食堂部門にも注力し、食堂部門は目を見張る成長を見せた。さらに、今年は会員主体の伝統を守りつつ、運営方針の変更で会員や来場者の満足度を高める施策を強化していくという。

**今年から7時04分スタートに早める。レストランは6時開店**

同クラブの設立経緯について、昨年10月の開場60周年記念パーティィーでの箱崎一彦理事長の挨拶内容が会報「白河高原」に掲載されているので紹介したい。

昭和35（1960）年当時、松平勇雄参議院議員が、当地にゴルフ場を開発しようと発案したのが始まり。翌年にゴルフ場開発会社を設立し、昭和38（1963）年8月に完成。同クラブでは国内でも他にない「秩父宮杯」・「内閣総理大臣杯」を開催しているが、その縁も祖父に最後の会津藩主の松平容保氏を持つ松平氏に由来する。行政管理庁長官として入閣した際に時の佐藤栄作総理大臣から内閣総理大臣杯が寄贈され、松平氏はその後福島県知事を3期、その間同クラブでは名誉理事長を務められた。

当地は山岳地としては稀なフラットな地形、かつて陸軍の軍

馬放牧場であった気象条件の良さ、国立公園内の静かな自然環境、加えて良質な温泉があることからゴルフ場に適地と判断されたものと紹介している。

コース設計は富沢誠造氏、クラブハウス設計はレーモンド設計事務所、ハウス施工は大成建設他で、コース設計及びクラブハウス設計の素晴らしさは現在でも同クラブを象徴する財産と評価。趣のある茅葺屋根の合掌作りのクラブハウス、高原でありながら比較的フラットな戦略性に富んだコース、24時間温泉が楽しめるホテルなどは、まさに60年間脈々と今日まで引き継がれているとして、箱崎理事長は「県下一の名門コース」、「クラブライフを楽しめる」、「また来たい、行きたいコース」との評価を未来に引き継いでいきたいと挨拶している。

前スルーの時間帯（宿泊者優先）とし、午後スループレー枠を12時半より設けるので、「是非、1泊スループレーをお楽しみください」と案内した。

本館2階から渡り廊下で奥に進むと左右に浴室。さらに奥に進むとホテルの地下2階で1、2階に浴室がある。標高83.5mにある浴室は甲子温泉から源泉を引き入れ24時間入湯可能。朝日を借景にした茅葺屋根の眺めが至高という

風呂に入っていたら、午後1時から2時の間にあれば東京までスムーズに行っていただけかな。4時ごろになると東京近辺で渋滞にはまってしまうので、一方、プレーしてから泊まられるお客様のために、12時40分からのスルースタート枠を新設しました。例えば、8時スタートですと東京を5時とか、4時半に家を出られると思います。新設の枠を使えば、8時とか9時に家を出て、約2時間で到着。その後に昼食をと

24年度通常プレー料金（3〜4名での1人料金、昼食等込み）は季節毎にゲストは平日8000〜1万4000円、土・日祝日1万1000円〜1万5000円、メンバーは平日、土・日祝日とも4500〜5700円。キャディフィは今年度から改定し4バッグ4200円からだが、メンバーが組合せ前提で予約した際には2バッグ割増は申し受けないとしている。

併設のホテルは朝食付きでメンバー3450円、ビジター6750円。入湯税込みで24時間温泉が楽しめる。ホテルはゴルフ場営業期間中無休で、冬季は基本的に金曜日と土曜日に営業すると暦付きで案内した。

同クラブの齋藤利幸支配人は「今年からスタート時間を変更します。昨年は7時30分スタートでしたが、7時04分から早めます。今までレストランが委託だったので難しかったのですが、22年12月から直営にしたので、6時にレストランをオープンして、スルーで回ってもらうのをメインでいきます」と説明する。

この改革は、トップシーズンに予約が集中するのでその緩和と東京への帰路を考えたもの。「宿泊翌朝のスタートを早目にすれば、日曜日夕方の渋滞前に東京を抜けてスムーズに帰ることがができます。9時半ごろから（スルーで回る）ターン枠を設定し、そこでターンしていただく。後半が2時間10分としても12時少し前には上がれます。プレー後は、お食事をとって、お

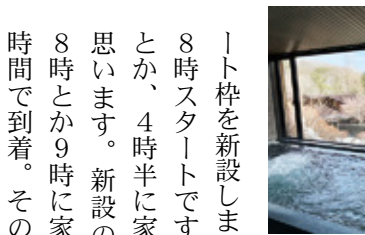
一方、プレーしてから泊まられるお客様のために、12時40分からのスルースタート枠を新設しました。例えば、8時スタートですと東京を5時とか、4時半に家を出られると思います。新設の枠を使えば、8時とか9時に家を出て、約2時間で到着。その後に昼食をと

同会報では2024年度は3月30日から11月30日までゴルフ場を営業すると案内。トップスタート時間は7時04分からに変更すること、8時00分までは午



東一松田耕一（右）と東京ゴルフ倶楽部（株）支店長 齋藤利幸（左）

「宿泊翌朝のスタートを早目にすれば、日曜日夕方の渋滞前に東京を抜けてスムーズに帰ることがができます。9時半ごろから（スルーで回る）ターン枠を設定し、そこでターンしていただく。後半が2時間10分としても12時少し前には上がれます。プレー後は、お食事をとって、お



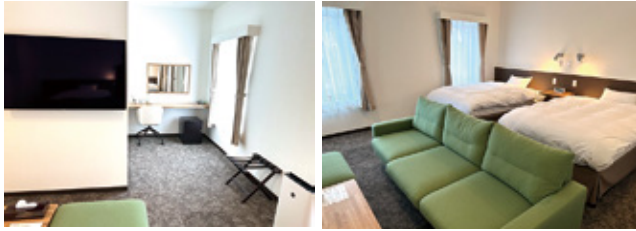
一方、プレーしてから泊まられるお客様のために、12時40分からのスルースタート枠を新設しました。例えば、8時スタートですと東京を5時とか、4時半に家を出られると思います。新設の枠を使えば、8時とか9時に家を出て、約2時間で到着。その後に昼食をと

41 甲子温泉は至徳元年（1384年）に州安和尚によって発見され松平樂翁公（定信）が好んで湯治された名湯と説明。発見されたのが甲子（きのえね）だったことから命名された。湯元よりクラブハウスまで引湯している

つていただいてからスタート。そして、プレー終了後にお部屋に行かれてご夕食というような形でゆつたりと過ごせます。

スループレー枠以外ですと、8時から9時半位までと、10時台の後半のところ。つまり、朝の方がターンし終わった後ろに少し枠がありますので、そこを

昼食・休憩をはさむ形を望まれる地元の方を中心に提供していきま  
す。メンバーが予約したい時間枠は集中します。ネット予約を入れないようにして対応する考えです」と話  
す。  
需要の変  
化にも対応



改装したデラックスツイン。ホテルは、エゴも完備で福島県南地方振興局の「ゴルフアーケーション」も受入れ

し、ホテルはツインから宿泊予約が埋まることから、2022年の冬季営業前にシングル3部屋ずつをデラックスツイン2部屋に改装し、71部屋（内シングル58部屋、他はツインルームと和室）で92名収容に変更した。

### レストランの直営化で、スループレーや冬期の営業等に繋がる

道路の渋滞回避とスループレー、食事の見直し、冬場のホテル営業も、レストランを直営化することで繋がった。支配人は「きつかけはメンバーさんから美味しい料理を食べたい」と要望があつたそうで、松田ディレクターは「思い切ったメニュー変更を迅速に行うためには、直営化が最適ではないかと考えました」と説明する。

レストランのメニューは、今年度のグルーブコースの方針から、季節のメニューを増やす考えで、同クラブでは春からハンバーグを違う形で提供、同クラブで開場以来の伝統の「甲子重」

や人気のラーメンなども改めて味を確認して提供する。夕食はメンバー定番のすき焼きの他、和風懐石等4種類を用意。新おつま

みとしてジンギスカン（北海道・橋本牧場提供で橋本聖子議員が監修したタレを使用）や、ちゃんちゃん焼きも加えた。季節に合わせたお弁当も販売する計画。支配人は「手前味噌になりますが、食事に対するクレームはほぼなくなりました」と手ごたえを感じている。卵など極力地産地消にも取り組んでいる。

同クラブはホテルもあることで夕食やお酒類の売上も貢献し、昨年の食堂売上高は他では達成できない金額に達した月もあつたようだ。

支配人によるとホテルの冬季営業が始まる前は、「1人ずつ当

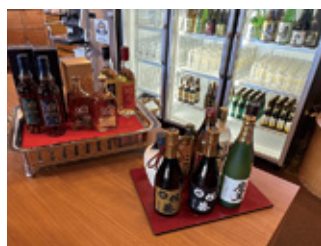
伝統の甲子重（きのえじゅう）



すき焼き5500円



和風懐石6820円



お酒の品揃え

番で施設の管理に来る位で、その他のスタッフは近隣の2か所のスキー場に向向していました。そこで何かできないか」と考えた結果、冬場のホテル営業と試験的なテントサウナや、雪上を歩くスノーシュー体験の案内を始めた。ホテルの館内清掃はシーズンに入ると業者に委託する



冬場のテントサウナ。約1時間で薪ストーブと水風呂のセッティングが可能と

が、冬季4カ月間は自社スタッフで行う。今年で2年目だが、宿泊者だけでなくSNSを通じて団体験目的の来場もあったという。悩ましいのは今冬に積雪が少なく、雪原での醍醐味が薄れていることらしい。

なお予約は宿・ホテルの予約サイトを通じても行い、全国旅行支援の福島県「来て。」割だけで今年2月は前期比100名増の140名の利用があるなど感觸のある結果を残した。県支配人会では福島空港経由での台湾からの訪日話があるそうだ。

レストランは直営にした際、スタッフを新規採用する苦勞があったそうだがやっとな落ち着いてきたという。松田ディレクターは「人材確保は、継続的な課題だと認識しています。将来的



薪ストーブは昭和38年の開場当時のスタイル

な通年雇用も見据え、冬季シーズ期間の出向先を検討し、試験的に運用するなど様々なことにチャレンジしています」と説明している。

ちなみに冬季のレストランは、茅葺屋根側は天井が高く暖まりにくいので、カーテンで仕切り、コース内で伐採したブナの木等を乾燥して薪にした薪ストーブのある側を利用している。

同クラブは2007年から、それまでの大成建設から現在の東京建物グループへと芙蓉グループの中で、経営移管した。薪ストーブの写真は昭和38年開場当時のものが飾ってある。グループの要人も集まるクラブであり、クラブハウスは茅葺屋根の

葺き替えをいざ行おうなど現在の形で残す方針で、会員中心の伝統と格式を取り戻すため今年度(12月)から会員年会費を正会員7・7万円(税込み、改定前2・64万円)に改定した。一方同クラブの強みである温泉とホテルを活用し、「スタート時間や予約、接客の面でも見える形を変えていく」ことで会員をはじめ来場者の満足度を高め、次回の来場を促す考えだ。

ゴルフ場スタッフは計30人ほど。季節雇用のキャディは10名ほどだが、キャディ付きプレーの伝統も継続したい考えだ。

またコース管理(スタッフは約10名)は自社で、冬場の2月などはグループコースに応援に行っている。同クラブでのコース改修はフェアウェイ排水の改良やコース間の雑木の伐採が中心。支配人は「コースはブランドも少なくプレーしやすいです。標高は約850mありますが、フェアウェイは洋芝でランが少ない。木が大きくなりすぎて打ちづらいところや日照不足



名物の5番谷越えホール

ンキを塗り直す予定だ。

同クラブはコロナ禍もあり一時来場者数が1万9千人ほどと少なくなつたが昨年は2万7千名(うち会員利用率10・11%、女性は約15%)に回復。会員数は600名弱と少なく、他のクラブに入会している会員も多いが、夏に利用が集中するので一連の営業改革に取り組んでいる。

なお名変の他、会員の紹介があれば正会員が預託金付き10万2380円、一代限りプレー権で10万31万4286円、2口セット55万円で入会できる。会員の利用料金などは破格の設定であり、同クラブの改革は注目に値する。